



The Japanese Association
of Organic Geochemists

Newsletter

Organic Geochemistry 65

Jan 18, 2017

目次

Report	2
第1回国際有機地球化学ワークショップ(第34回有機地球化学シンポジウム)開催される 2016年度有機地球化学賞(学術賞)受賞者決まる 参加レポート 中國正寿	
Invitation	7
第35回有機地球化学シンポジウム 池原実 IGCP630 Annual Symposium (2017)“Permian-Triassic climatic & environmental extremes and biotic responses”開催のご案内 海保邦夫	
Information	9
2016年度総会議事録/年会費納入のお願い	
Announcement	18
2017年度有機地球化学賞(学術賞)候補者推薦の募集 研究奨励賞(田口賞)2017年度受賞候補者の募集 ROG33巻へ論文を投稿しましょう!!	
編集後記	20

Report

第1回国際有機地球化学ワークショップ (第34回有機地球化学シンポジウム) 開催される

第1回国際有機地球化学ワークショップ(第34回日本有機地球化学シンポジウム、2016年大阪シンポジウム)が平成28年7月4~5日に大阪府・箕面観光ホテルにて開催されました。参加者総数68名(日本:海外=57:11)、参加国数は10カ国(日本、アメリカ、イギリス、オランダ、スウェーデン、スペイン、ハンガリー、韓国、サウジアラビア、オーストラリア)、口頭発表件数は25件、ポスター発表件数は26件と、御蔭様で盛況の内に終えることができました。



第1回国際有機地球化学ワークショップ集合写真(2016年7月4日、箕面観光ホテル)



左から学術賞受賞の北大・山本会員, ポスター発表賞受賞の阪大・森藤直人さん, 北大・前山大地さん, 北大・滝沢侑子さん

<海外招待者名・講演題目一覧(アルファベット順)>

Prarthana Ghosh (University of Wisconsin, Madison, USA)

「An investigation into elevated levels of mercury in the largemouth bass: A combined biomarker approach」

Yongsong Huang (Brown University, USA)

「A review of recent advance in alkenone analysis and applications at Brown University」

Euan Monaghan (Leiden University, The Netherlands)

「The Next Best Thing to Mars: Biomarkers in the Atacama Desert」

Nikolai Pedentchouk (University of East Anglia, UK)

「Hydrogen isotope composition of *n*-alkyl lipids in glaucous and non-glaucous wheat」

Kyung-Hoon Shin (Hanyang University, Republic of Korea)

「Phenylalanine nitrogen stable isotope ratio of freshwater fishes as an indicator of trophic baseline in lacustrine environments」

Sandra Siljeström (SP Technical Research Institute of Sweden, Sweden)

「Determination of single hydrocarbon inclusions source rock facies」

開催準備活動を逐次報告するにあたって、鈴木会長、稲場事務局長、早稲田副会長には、重要な助言と激励でいつも支えて頂きました。奈良岡会員には 10 万円のご寄付を頂き、学生の参加費免除に有り難く活用させて頂きました。協賛金は 17 万円と例年の倍を上回り、協賛会員および関連企業の皆様からのご高配を頂きました。東京地学協会からは 100 万円の助成を受けました。

また、本会初の国際ワークショップ開催ということで、運営委員会や総会においては、応援と心配のこもったさまざまなご意見を頂きました。研究者個の幸福とコミュニティのあり方については会員によって考えが異なることを知ったのも、大切な学びです。今回私達は、コミュニティの発展が研究者個としてのさらなる充実と次世代の教育・研究の発展に繋がるという信念の下、そのひとつの形の実現を試みましたが、結果として、本会の次の一歩へ貢献できたのではないかと感じております。今後、有機地球化学分野におけるアジア諸国間交流、IMOG や Geochemical Society における国際交流の深化等のきっかけとなれば幸いに存じます。最後になりましたが、参加者の皆様、シンポジウム準備を支えてくださった皆様に、心からお礼申し上げます。

(藪田ひかる、山中寿朗、池原実、力石嘉人、朝比奈健太)

2016 年度有機地球化学賞(学術賞)受賞者決まる

2016 年度有機地球化学賞(学術賞)は、同賞受賞候補者選考委員会で審議された後、運営委員会において、山本正伸会員に授与することか承認されました。2016 年度総会後に表彰式が行われ、賞状と記念メダルが山本会員に贈られました。おめでとうございます。

有機地球化学賞(学術賞)第 13 号

受賞者: 山本 正伸 会員(北海道大学大学院地球環境科学研究院地球圏科学部門環境変動解析学分野及び国際連携研究教育局)

受賞題目: 「バイオマーカーによる古海洋環境の復元に関する研究」

受賞理由

山本正伸会員は、海洋堆積物中に含まれる各種バイオマーカーに注目して、古気候の解明や古海洋環境の復元に関する研究を進めている。特に、有機地球化学的な方法に基づいて行われた北太平洋亜熱帯循環の氷期間氷期変動に関する研究や北極海の古海洋環境変動に関する研究において、国際的に高い評価を受けている。

北太平洋亜熱帯循環に関しては、ODP 第 167 節航海および IMAGES 西太平洋航海に参加し、カリフォルニア沖と茨城県鹿島沖の海底コアを用いて、アルケノンなどのバイオマーカーによって古水温を復元し、過去 14.5 万年間北太平洋亜熱帯循環が歳差運動に応答して変動していることを明らかにした。また鹿島沖コアの完新世水温変動から、ダンスガード・オシュガーサイクルを特徴づける 1500 年周期変動が氷期に限らないことを示した。さらに、南シナ海コアの古水温を復元し、東アジア冬季モンスーンの数万年規模変動での周期と位相を明らかにすることに成功した。これら論文は現時点で合計 150 回以上引用されている (Google

Scholar)。北極海の古海洋環境変動に関する研究では、IODP 第 302 節航海、Healy-Oden 北極海横断調査、Araon 北極海航海に参加し、陸起源バイオマーカーによって更新世北極海の環境変化や北極海へ流れ出した氷山の供給源の変遷を復元している。以上の研究成果により、山本会員は、太平洋および北極地域の気候海洋循環の氷期間氷期変動、および千年規模変動を解明することに大きく貢献している。

そのほか、山本会員は古海洋環境を復元するための指標に関する研究も行っている。円石藻の培養実験により、アルケノン不飽和指標値が生育温度だけでなく栄養塩濃度の影響を受けることを初めて見いだした。またテトラエーテル脂質が海洋水柱で植物プランクトン遺骸とともに沈降することを示し、同脂質組成に基づいた古水温指標である TEX_{86} が海面近くの水温を示す理由を明快に説明した。一方、古海洋以外の石油地球化学に関する研究でも顕著な成果をあげており、窒素化合物に注目した石油の移動に関する研究成果は、これまでに 84 回引用されている。

以上の研究成果を含めて、山本会員はこれまでに 86 編の原著論文 (このうち国際誌 63 編、合計被引用回数 1764 回)、著書 7 編、総説・報告書等 48 編を公表し、また国際集会において 12 件の招待講演を行っている。

研究活動以外では、山本会員は国際深海掘削計画 (IODP) の国際パネル運営に積極的に関わっており、科学技術委員 (2003-2006)、試料管理助言委員 (2006-2014)、科学助言評価委員 (2010)、科学評価委員 (2014-現在) として IODP の発展に貢献している。また日本地球化学会監修地球化学講座第 4 巻「有機地球化学」の編纂に携わるとともに、その韓国語版の出版にも積極的に協力し、有機地球化学を通じ

た国際交流にも努めている。さらに、日本有機地球化学会では運営委員をはじめとして各種委員を務め、日本有機地球化学会監修「地球・環境有機分子質量分析マニュアル」を企画立案し、編集委員長として編集作業に携わっている。以上のとおり、山本正伸会員は古環境、古気候、

及び石油資源に関する有機地球化学の分野で顕著な学術業績をあげており、有機地球化学賞(学術賞)を受賞するに相応しいと判断される。

(有機地球化学賞(学術賞) 受賞候補者選考委員長 坂田 将)

創価大学の中國正寿さん(博士課程3年)に国際有機地球化学ワークショップに参加した感想をご寄稿頂きました。

International workshop of organic geochemistry 2016 (有機地球化学ワークショップ 2016) : 参加レポート

創価大学有機地球化学研究室
中國 正寿(博士課程3年)

International workshop of organic geochemistry 2016 は、日本有機地球化学会が毎年開催する年會を国際的な枠組みに広げて行われたシンポジウムである。今年、本シンポジウムの前に Goldschmidt 2016 が横浜で開催されていた(2016年6月27日-7月1日)。大規模な国際学会が日本でされる貴重な機会であり、これを活かし、Goldschmidt からの流れで参加できるようにと連続した日程の中で本シンポジウムの期間は組まれていた(2016年7月4日-5日)。

日本有機地球化学会の開催するシンポジウムに参加するのは、これで5度目となるが、私の経験上、日本有機地球化学会の開催では初の国際枠で、企画案を聞いた前年度よりどのようなシンポジウムになるのかとても楽しみにしていた。

開催場所は、“天下の台所”大阪の「箕面」。箕面は、東京よりも幾分か暑く、日本の夏らしい気候の中での開催であった。箕面は、大阪の北部に位置し、箕面駅を降りて箕面山に向かって歩けば、旧家が佇む風情ある地域である。会場に向かう途中、“もみじ揚げ”なる看板を目にしたが、どうやら名物のようで、なんとも洒落ている。開催会場は、箕面山の

中腹に建てられた「箕面観光ホテル」。会場からは大阪の街を一望でき、とても見晴らしのいい場所に建てられたホテルであった。

受付で手渡された冊子には、シンポジウム名の他に、“Biomarkers and molecular isotopes”との題が記載されていた。それになぞらえ、セッションテーマは、“Biomarker”、“Oil and Source rocks”、それに“Ecology”の3つから構成されていた。本シンポジウムの発表者は、Oral で25名、Poster で24名の合計49名であったが、会場にはそれ以上の参加者がいらした様に思える。会場は1つで、そこですべてのOral とPoster 発表が行われた。会場が1つなので、有機地球化学としての研究内容を幅広く聞くことができ、これは今後の研究の動向を知る上でも魅力的であった。

例年であれば、日本有機地球化学会のメンバーの研究が中心となるが、本シンポジウムでは、国際的な枠組みであるため、さらに新鮮な内容となった。Biomarker セッションでは、有機物バイオマーカーを用いた植生変化や気候イベントなどの古環境解析へのアプローチ、有機物バイオマーカーのメソッド面での新たな可能性、バイオマーカーとしての同位体比の傾向性など、広くバイオマーカーに係るこ

とが語られた。Oil and Source rocks セッションでは、ガスの年代決定、根源岩の組成分析やケロジェン中の有機物-無機物との関係が紹介された。Ecology セッションでは、主にアミノ酸の同位体比を用いた栄養段階の解明が語られ、それは環境問題との組み合わせでも試みられていた。いずれも興味深い発表ばかりで、とても勉強になった。

それらセッションも然ることながら、Special session として Dr. John Volkman が招かれていたことは、私にとって大変貴重な機会になったと思う。彼は研究雑誌“Organic Geochemistry”の Editors-in-Chief の一人であり、また有機地球化学を勉強する上で、彼の論文を一度は目にするであろう著名な科学者である。私も Sterol をバイオマーカーとして古環境解析を試みた際には、彼の論文を何度も目にし、数多くのことを学ばせていただいていた。それ故、これだけ影響力のある論文を書く研究者は、一体どのような人物なのかとても興味があった。彼のプレゼンのタイトルは「Step-wise pyrolysis of kerogen from Eocene Huadian oil shale, NE China: algaenan-derived hydrocarbons, *n*-alkan-2-ones and mid-chain ketones」。内容は、藻類由来の有機物リッチな始新世 Huadian oil shale の異なった温度下で熱

分解される有機物に違いがあることなどが紹介された。また、後半部では、「A message to young scientists “Getting published in the Organic Geochemistry journal」と題して、若い研究者に向けての論文投稿等へのアドバイスをくださった。

若手の研究者といえば、Oral でも Poster でも、Dr. Volkman を含めシニアの研究者の方々と私のような学生や若手の研究者が互いに、活発な議論、発展に繋がる率直な意見を交わっていたことも印象に深かった。この一例にも見られるように、有機地球化学に携わる研究者の方々は、未来の科学者である若い研究者を本当に大切にしてくださり、とてもありがたく、また感謝の念に堪えない。私も将来、そういう、有意義な意見を交わせ若き研究者を大切にする研究者になりたいというのが今の一目標でもある。これからも日本の有機地球化学の分野は広く世界に活躍の場を広げていくと思われる。本シンポジウムは、その一つの大事な節目を担う大事なシンポジウムであったように思えた。そして私も、この波にのるべく、この夏に経験したことを活かして、より一層成長したといえるよう挑戦を続けていきたい。



Picture 1. 箕面観光ホテルから大阪を一望

Invitation

次回の第 35 回有機地球化学シンポジウムは、高知での開催です！

第 35 回有機地球化学シンポジウム（高知シンポジウム）

日程：2017 年 8 月 29 日（火）～8 月 31 日（木）

場所：高知県立大学（永国寺キャンパス）

※ 8 月 28 日に運営委員会、29-31 日にワークショップを開催。29 日夕方に総会を予定しています。

第 35 回有機地球化学シンポジウムは、晩夏の高知にて開催いたします。日程は、2017 年 8 月 29 日（火）～8 月 31 日（木）とし、主会場は高知県立大学（永国寺キャンパス）です。高知でのシンポジウムは 2005 年以来の 2 回目となり、ちょうど干支一回り（12 年振り）での開催です。高知県立大学は高知城や繁華街、ホテルなどにも近く、利便性の高い場所にあります。日中はシンポジウムで活発に議論し、夜は高知の酒文化も堪能しつつ、様々な交流を深めていただけたと思います。高知市街や近郊には、高知城（木造のまま残る 12 の古天守の一つ）を始め、幕末から明治の土佐の偉人達（坂本龍馬、武知瑞山、板垣退助など）の息づかいを感じるような史跡（誕生地、生

家跡、記念碑など）も多数あり、観光の見所も満載です。

また、31 日午後には、高知大学海洋コア総合研究センター（高知コアセンター）の見学ツアーも計画しています。コアセンターは、高知龍馬空港に隣接する高知大学物部キャンパス内にあり、国際深海科学掘削計画（IODP）のコア保管庫とともに地球惑星科学関連の充実した分析設備が設置されています。

2017 年の夏はぜひ高知へお越しください。先端科学、地球史、日本の近代史を実感する 3 日間となること間違いなし。多くの方々のご参加をお待ちしております。（世話人：池原実）



高知市ホームページより



高知大学海洋コア総合研究センター
（高知コアセンター）

国際シンポジウムの招待状が届きました！



**IGCP 630 Meeting in Japan, 2017
(Permian-Triassic Climatic
& Environmental Extremes and Biotic Response)**

Sendai, Japan

June 14-20, 2017

**IGCP630 Annual Symposium (2017)
“Permian-Triassic climatic & environmental extremes and biotic responses”
開催のご案内**

「ペルム紀-三畳紀気候環境極端事件と生物の応答」と題する国際シンポジウム（IGCP630）を2017年6月14日～16日に東北大学で開催いたします。ペルム紀三畳紀の大量絶滅の背景となった環境条件に関連して、その比較のための他の地球史事変や、ペルム紀-三畳紀の環境状態を定量的に解くための気候環境モデルの計算（時代を問わない）のセッションなどが企画されています。シンポジウム開催後（16日～20日）には研究対象時代の巡検旅行もあります。サーキュラーは <http://www.sci.tohoku.ac.jp/news/20170110-8843.html> から入手できますので、参加をご検討ください。

シンポジウム代表：海保邦夫（東北大学）

「2016 年度総会」議事録

1. 日時 2016 年 7 月 4 日（月）17:30～18:15
2. 会場 箕面観光ホテル パインメープル
3. 議長選出 高知大学 池原実会員を議長に選出した。
4. 議事内容 1 事業全般（事業、会計、会計監査）
 - 4.1. 2015 年度事業実績報告・会計実績報告・会計監査報告（2015 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

以下の報告が事務局および金子監事（事務局が代行）からあり、出席者の賛成多数により承認された。

 - 4.1.1. 2015 年度事業実績
 - (1) Publication 関係
 - ・ニューズレター No.60（2015 年 1 月 7 日）、No.61（2015 年 6 月 3 日）発行
 - ・ROG Vol.31 Nos.1-2（2015 年 12 月 30 日）発行、86 ページ
 - (2) Meeting 関係
 - ・学術賞受賞候補者選考委員会（2015 年、email にて）
 - ・田口賞受賞候補者選考委員会（2015 年、email にて）
 - ・運営委員会（2015 年 8 月 5 日、北海道大学低温科学研究所交流ラウンジ、ほか email にて随時）
 - ・第 33 回有機地球化学シンポジウム（2015 年 8 月 6 日～7 日、北海道大学低温科学研究所講堂）
 - ・総会（2015 年 8 月 6 日、北海道大学低温科学研究所講堂）
 - ・ROG 編集委員会
 - ・記念事業・マニュアル編集委員会
 - ・将来計画委員会
 - (3) 事務局関係
 - ・ROG の電子化...Vol.30 の「電子図書館」および学会ホームページで公開、「電子図書館」から J-STAGE への移行手続き
 - ・賛助会員の勧誘、ROG の販売促進、シンポジウム協賛の勧誘
 - ・会計処理、会員管理、ホームページの更新、役員選挙
 - 4.1.2. 2015 年度会計実績

一般会計		2015年度				
大項目	小項目	2014年度	2015年度			増減(対中間)
		決算	予算	中間見通し	決算	
収入	賛助会費	200,000	200,000	200,000	200,000	0
	個人会費	117,000	180,000	176,000	156,000	-20,000
	ROG販売	2,082	30,000	30,205	2,205	-28,000
	シンホ協賛金・剰余金	60,000	60,000	60,000	90,000	30,000
	利子ほか	67,456	100	486	486	0
	計	446,538	470,100	466,691	448,691	-18,000
前年度繰越金		2,082,264	2,171,959	2,171,959	2,171,959	
総計		2,528,802	2,642,059	2,638,650	2,620,650	-18,000
支出	ROG印刷費	284,800	300,000	313,300	162,000	-151,300
	送料	19,450	30,000	39,724	11,304	-28,420
	HPオンライン化維持費	28,404	28,000	28,000	28,404	404
	シンポジウム予備費	8,385	50,000	50,000	0	-50,000
	事務局経費	14,940	30,000	30,000	0	-30,000
	雑費	864	30,000	0	10,152	10,152
	計	356,843	468,000	461,024	211,860	-249,164
次年度繰越金		2,171,959	2,174,059	2,177,626	2,408,790	231,164
総計		2,528,802	2,642,059	2,638,650	2,620,650	-18,000

前年度繰越金は2014年度決算により修正（次年度繰越金も連動）

田口基金

大項目	小項目	2014年度	2015年度			
		決算	予算	中間見通し	決算	増減(対中間)
収入	利子	10,553	20	22	42	20
	借入	0	0	0	0	0
前年度繰越金		1,684,565	1,595,118	1,595,118	1,595,118	
総計		1,695,118	1,595,138	1,595,140	1,595,160	20
支出	副賞(田口賞)	50,000	50,500	50,000	50,000	0
	返済	50,000	0	0	0	0
次年度繰越金		1,595,118	1,544,638	1,545,140	1,545,160	20
総計		1,695,118	1,595,138	1,595,140	1,595,160	20

前年度繰越金は2014年度決算により修正(次年度繰越金も連動)

4.1.3. 2015年度会計監査

会計監査報告

日本有機地球化学会一般会計および田口基金の2015年度会計報告を、出納簿、請求書、郵便貯金および振替口座、その他提示された証明書類に基づいて審査した結果、それが正確に処理されていると認められましたので、ここに報告致します。

平成 28 年 6 月 24 日

監事 金子 信行 

4.2. 2016年度事業中間実績報告・事業中間計画提案・会計中間実績報告・会計中間見通し報告
以下の報告が事務局からあり、出席者の賛成多数により承認された。

4.2.1. 2016年度事業中間実績(2016年1月1日～6月30日)

(1) Publication 関係

- ・ニュースレター No.62 (2016年1月7日)、No.63 (2016年3月23日)、No.64 (2016年6月20日) 発行

(2) Meeting 関係

- ・運営委員会 (emailにて随時)
- ・学術賞受賞候補者選考委員会 (2016年6月、emailにて)
- ・田口賞受賞候補者選考委員会 (2016年5月～6月、emailにて)
- ・シンポジウム実行委員会 (emailにて随時)
- ・NL編集委員会(emailにて随時)
- ・ROG編集委員会
- ・記念事業・マニュアル編集委員会
- ・将来計画委員会

(3) 事務局関係

- ・ISSN 日本センターに正式登録の審査申請、電子図書館移行申請書の郵送、J-STAGEへのELSデータ移行申込書の送信
- ・賛助会員の勧誘、ROGの販売促進、シンポジウム協賛の勧誘

- ・会計処理、会員管理、ホームページの更新

4.2.2. 2016 年度事業中間計画 (2016 年 7 月 1 日～12 月 31 日)

(1) Publication 関係

- ・ ROG Vol.32 No.1 発行

(2) Meeting 関係

- ・ 運営委員会 (2016 年 7 月 3 日、箕面かじかそう 2 階パブリックスペース、email にて随時)
- ・ 第 34 回有機地球化学シンポジウム(国際有機地球化学ワークショップ、2016 年 7 月 4 日～7 月 5 日、箕面観光ホテル)
- ・ 総会 (2016 年 7 月 4 日、箕面観光ホテル・パインメープル)
- ・ NL 編集委員会(email にて随時)
- ・ ROG 編集委員会
- ・ 記念事業・マニュアル編集委員会
- ・ 将来計画委員会
- ・ 共催... 日本地質学会第 123 年学術大会 (2016 年 9 月 10 日～12 日、日本大学)

(3) 事務局関係

- ・ 会計処理、会員管理、ホームページの更新
- ・ J-STAGE 利用説明会参加、J-STAGE に ROG 最新号 (Vol.31) 登録

4.2.3. 2016 年度会計中間実績 (2016 年 1 月 1 日～6 月 30 日) および中間見通し

一般会計

大項目	小項目	2016年度					増減	コメント
		当初予算	修正予算	上期実績	下期見通し			
収入	賛助会費	200,000	200,000	140,000			0	
	個人会費	180,000	180,000	186,000			0	
	ROG販売	30,000	10,000	0			-20,000	
	シホ協賛金・剰余金	60,000	60,000	60,000			0	
	利子ほか	100	100	248			0	
	計		470,100	450,100	386,248	0		-20,000
前年度繰越金		2,408,790	2,408,790				0	
	総計	2,878,890	2,858,890				-20,000	
支出	ROG印刷費	300,000	300,000	0			0	
	送料	30,000	30,000	0			0	
	HPオンライン化維持費	28,000	28,000	0			0	
	シンポジウム予備費	50,000	300,000	300,100			250,000	大阪シンポジウム2016
	事務局経費	30,000	30,000	0			0	
	雑費	30,000	30,000	0			0	
	計		468,000	718,000	300,100	0		250,000
次年度繰越金		2,410,890	2,140,890				-270,000	
	総計	2,878,890	2,858,890				-20,000	

前年度繰越金は2014年度決算により修正(次年度繰越金も連動)

田口基金

大項目	小項目	2016年度					増減	コメント
		当初予算	修正予算	上期実績	下期見通し			
収入	利子	22	22	16			0	
前年度繰越金		1,545,160	1,545,160	0			0	
	総計	1,545,182	1,545,182	16			0	
支出	副賞(田口賞)	50,000	50,000	0			0	
次年度繰越金		1,495,182	1,495,182	16			0	
	総計	1,545,182	1,545,182	16			0	

前年度繰越金は2014年度決算により修正(次年度繰越金も連動)

4.3. 2017 年度事業計画提案・会計計画提案 (2017 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

以下の内容について事務局から提案があり、出席者の賛成多数により承認された。

4.3.1. 2017 年度事業計画

(1) Publication 関係

- ・ ニュースレター No.65、No.66 発行
- ・ ROG Vol.33 発行

(2) Meeting 関係

- ・ 第 35 回有機地球化学シンポジウム
- ・ 総会
- ・ 運営委員会
- ・ 学術賞受賞候補者選考委員会
- ・ 田口賞受賞候補者選考委員会
- ・ シンポジウム実行委員会
- ・ NL 編集委員会
- ・ ROG 編集委員会
- ・ 記念事業・マニュアル編集委員会
- ・ 将来計画委員会

(3) 事務局関係

- ・ 賛助会員の勧誘、ROG の販売促進、シンポジウム協賛の勧誘
- ・ 会計処理、会員管理、ホームページの更新、ROG 電子化 (J-STAGE)

4.3.2. 2017 年度会計計画

一般会計

大項目	小項目	2016年度	2017年度	コメント
		修正予算	予算	
収入	賛助会費	200,000	200,000	
	個人会費	180,000	180,000	
	ROG販売	10,000	10,000	
	シンポジウム協賛金	60,000	60,000	高知シンポジウム2017
	利子	100	100	
	計	450,100	450,100	
前年度繰越金		2,408,790	2,140,890	
	総計	2,858,890	2,590,990	
支出	ROG印刷費	300,000	300,000	
	送料	30,000	30,000	
	HPオンライン化維持費	28,000	28,000	
	シンポジウム予備費	300,000	50,000	高知シンポジウム2017
	事務局経費	30,000	30,000	
	雑費	30,000	30,000	
	計	718,000	468,000	
次年度繰越金		2,140,890	2,122,990	
	総計	2,858,890	2,590,990	

田口基金

大項目	小項目	2016年度	2017年度	コメント
		修正予算	予算	
収入	利子			
前年度繰越金		1,545,160	1,495,160	
	総計	1,545,160	1,495,160	
支出	副賞(田口賞)	50,000	50,000	
次年度繰越金		1,495,160	1,445,160	
	総計	1,545,160	1,495,160	

5. 議事内容 2 役員、会則

5.1. 2015 年度日本有機地球化学会役員選挙結果確認

以下の報告が事務局からあった。

- ・選挙管理委員会 柏山 祐一郎 (委員長)、山本 真也、金子 雅紀
- ・立候補・推薦受付 2015 年 4 月 15 日～6 月 15 日
- ・投票受付期間 2015 年 6 月 22 日～7 月 21 日
- ・開票 2015 年 7 月下旬
- ・投票数 61 票
- ・当選者 下記のとおり

会長: 鈴木 德行

北海道大学

副会長: 早稲田 周

石油資源開発株式会社

監事: 金子 信行

産業技術総合研究所

運営委員 (五十音順):

稲場 土誌典

国際石油開発帝石株式会社

大場 康弘

北海道大学

坂田 将

産業技術総合研究所

沢田 健

北海道大学

高野 淑識

海洋研究開発機構

奈良岡 浩

九州大学

藪田 ひかる

大阪大学

山内 敬明

九州大学

山中 寿朗

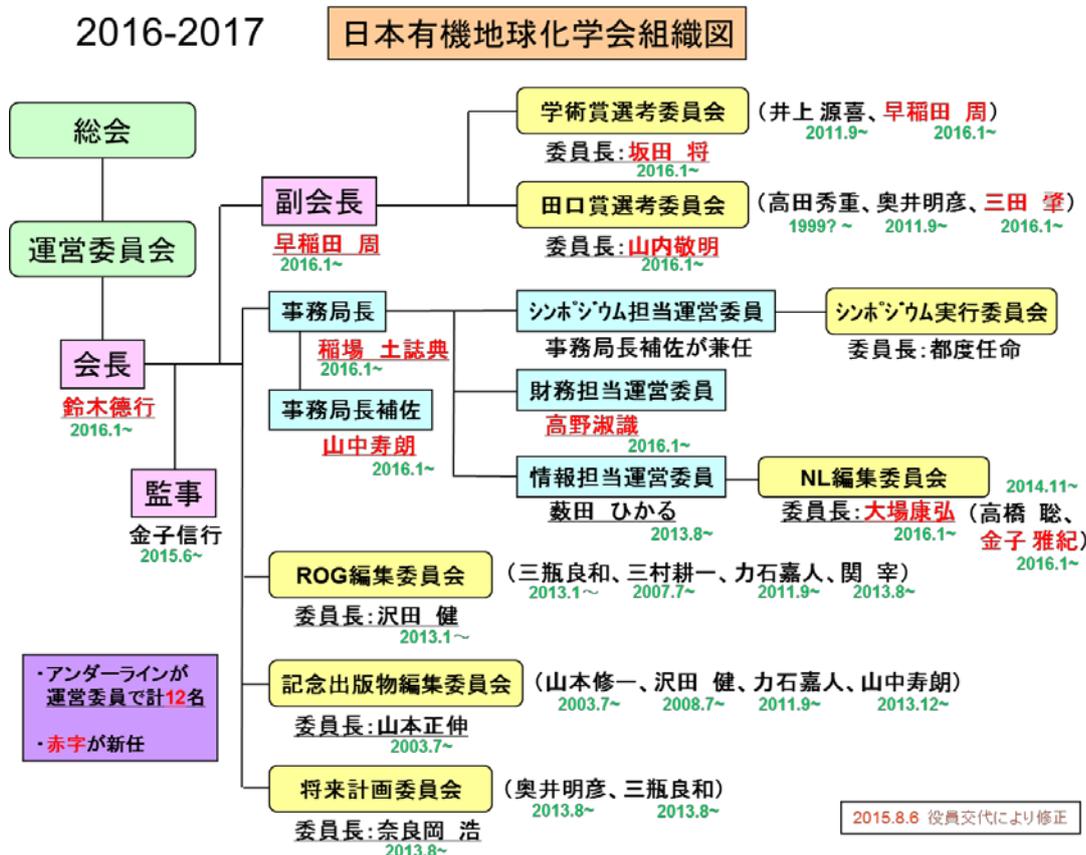
岡山大学

山本 正伸

北海道大学

5.2. 2016～2017 年度日本有機地球化学会役員・組織報告

鈴木会長より、選挙で選出された役員およびその他の委員の役職と組織について以下の報告があった。



6. 議事内容 3 各委員会活動

6.1. 学術賞選考委員会報告

坂田委員長より、以下の学術賞選考結果の報告があった。

受賞者: 山本 正伸 会員

所属・職名: 北海道大学大学院地球環境科学研究院地球圏科学部門環境変動解析学分野及び国際連携研究教育局・准教授

研究題目: バイオマーカーによる古海洋環境の復元に関する研究

6.2. 田口賞選考委員会報告

山内委員長より、選考の結果、2016 年度には研究奨励賞（田口賞）の受賞者がなかった旨の報告があった。

選考経緯

- 2016 年 1 月 7 日 ニュースレターNo.62 にて研究奨励賞（田口賞）募集記事掲載
候補者の資格、募集の方法、推薦の方法
- 2016 年 5 月 16 日 募集のリマインド
- 2016 年 5 月 31 日 募集の締め切り（2016 年 6 月 3 日まで待つも応募者なし）
- 2016 年 6 月 6 日 募集延長しない旨を鈴木会長ほかに提案して了承

6.3. ROG 編集委員会報告

沢田委員長より、以下の報告があった。

(1) ROG Vol.32, No.1 編集状況

- ・論文 1 編
- ・2016 年 9 月発刊予定(PDF ファイルを Web 公開)
- ・Vol.32, No.2 は 2016 年 12 月に刊行予定

(2) 学術賞受賞記念論文の再開

- ・学術賞受賞者の受賞記念論文が、2011 年 ROG (Vol.26) の早稲田会員、奈良岡会員を最後に滞っている。それ以降の受賞者に受賞記念論文の執筆をお願いする。

(3) シンポジウム講演

- ・2016 年の国際有機地球化学ワークショップの講演者（特に海外の研究者）に ROG への論文投稿をお願いする案を検討している。

(4) ROG Vol.30 (30 周年) 企画

「有機地球化学のこれまでの歩みと現在、そして未来」(仮題)

- ・日本有機地球化学会のシニア世代の方々のご協力を得て、各々の有機地球化学の専門領域のこれまでの歩みと、現在・将来において重視すべき研究テーマ、そして未来のために残したいことをまとめた論文・総説を毎号 1 つ掲載する。
- ・執筆者は ROG 編集委員会で決めて、執筆依頼する。または、ご本人が執筆をご希望され投稿された場合には受け付ける。

6.4. 記念事業・マニュアル編集委員会報告

山本委員長より、以下の報告があった。

(1) マニュアル暫定版

- ・<http://www.ogeochem.jp/manual.html> にて公開中

(2) 2015 年運営委員会以降の進捗

- ・1.8 石油地球化学（早稲田会員）を受理し、掲載した。

(3) テンプレート

- ・第 3 章の記述用テンプレート (m-allyl lipids) を公開した。
- ・このテンプレートにしたがい、編集委員が ROG 技術論文著者と連絡をとり、マニュアル冊子の形態に記述を改訂する予定である。

7. 議事内容 4 その他

以下の各報告が事務局からあった。

7.1. 来年度のシンポジウム開催場所

(1) 経緯

- ・2016年度: 5年ほど前から開催を打診し開催希望の回答を得ていた大阪大学に開催をお願いし、2016年6月末開催のゴールドシュミット横浜会議の事後会議として国際ワークショップの形で7月に開催した(代表世話人は藪田ひかる会員)。
- ・2017年度: 以前の開催から10年ほど経過した高知大学に2017年度の開催を打診したところ、前向きな回答を頂いている(代表世話人は池原実会員)。

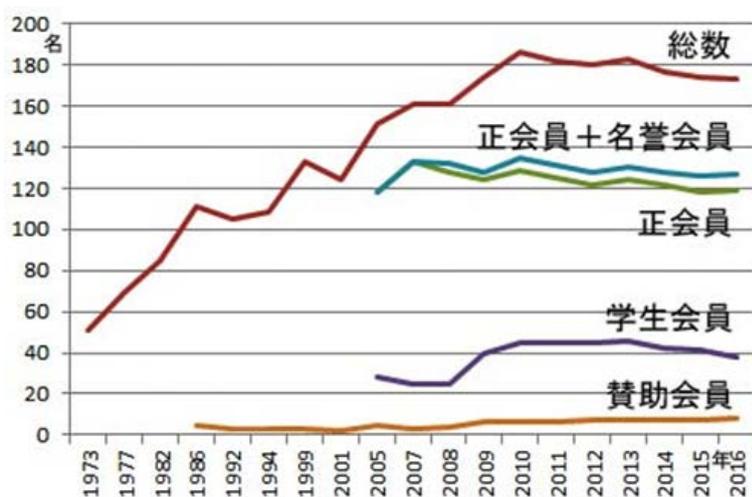
(2) 第35回有機地球化学シンポジウム(2017年高知シンポジウム)開催計画案

- ・日程 2017年8月29日(火)～8月31日(木)
運営委員会、講演会、ポスター発表、総会、懇親会、高知コアセンター見学会(検討中)、巡検(検討中)
- ・会場 高知大学(海洋コア総合研究センター)もしくは高知県立大学(永国寺キャンパス)
- ・世話人 池原実 会員(高知大学海洋コア総合研究センター)

7.2. 会員の現況(2016年7月3日現在、敬称略)

(1) 経緯

- ・入会(5名)
正会員: 中川麻悠子
学生会員: 田所良幸、長山美紗子、館下雄輝
賛助会員: 株式会社クリムゾンインタラクティブジャパン
- ・退会(1名):
学生会員 福村朱美
- ・物故(なし)
- ・除籍見込み(23名)
正会員: 12名
学生会員: 11名
- ・カテゴリー変更(なし)
- ・現況 173名(2015年度 174名)
正会員 119名(2015年度 119名)
学生会員 38名(2015年度 40名)
名誉会員 8名(2015年度 8名)
賛助会員 8社(2015年度 7社)
- ・会員数の推移(1973～2016年)



7.3. ROG 電子化: 「電子図書館」から「J-STAGE」への移行

(1) 経緯

- ・現在、ROGは国立情報学研究所(NII)が運営する「電子図書館(ELS)」にVol.1からVol.30

まで掲載されている。

- ・電子ジャーナルプラットフォームとしては科学技術振興機構（JST）が運営する J-STAGE がある。国が学協会誌の電子化に対する支援を J-STAGE に一本化するという方針を示したため、J-STAGE へ移行する必要がある。
- ・ROG は Vol.31 から J-STAGE に移行する予定で手続き中である。

(2) 主な進捗状況と今後の予定

- ・2015 年 9 月 7 日 J-STAGE 移行に必要な ROG の ISSN 登録予定番号を取得。
- ・2016 年 3 月 1 日 ROG にオンライン ISSN 登録予定番号を表示し、ISSN 日本センターに正式登録の審査を申請。
- ・2016 年 3 月 2 日 「電子図書館移行申請書」を国立情報学研究所（NII）に送付。
- ・2016 年 5 月 9 日 ISSN 日本センターから登録手続完了通知を受領。
- ・2016 年 8 月 24 日 「J-STAGE 利用説明会」に参加予定。
- ・2016 年 8 月～10 月 J-STAGE に ROG 最新巻（Vol.31）掲載予定。

(3) 問題点、必要事項

- ・J-STAGE では掲載データをすべて学会側が作成する必要がある、どれくらいの手間（費用？）を要するか調査の必要がある。
- ・バックナンバーについては ELS から J-STAGE にデータが引き渡されるものの、エラーがないか本会側で確認が必要である。

7.4. 学会共催

日本地質学会の堆積部会所属 4 セッション（2016 年 9 月 10 日～9 月 12 日、日本大学文理学部）
昨年に引き続き地質学会の堆積部会所属の下記 4 セッションを本会が共催する。

- ・石油・石炭地質と有機地球化学
- ・堆積物（岩）の起源・組織・組成
- ・炭酸塩岩の起源と地球環境
- ・堆積過程・堆積環境・堆積地質

この共催により、本学会会員はこれらのセッションで発表が可能となり、参加登録費が地質学会会員と同額となる。

7.5. 会員からの意見・連絡

- ・会員の減少傾向とその対応策
- ・学生会員の勧誘
- ・繰越金の有効活用

2017年の年会費納入のお願い

会員の皆様には日頃よりご支援いただき、誠にありがとうございます。

2017年1月より新しい会計年度になります。すみやかな年会費の納入にご協力をいただけますよう、よろしくお願い致します。

年会費： 正会員 2,000 円
 学生会員 1,000 円

振込み先：郵便振替口座 00110-7-76406
(名義人：日本有機地球化学会)

所属機関より納入するなど会員登録名以外でお振込みの方は、事務局財務担当の高野 (takano(a)jamstec.go.jp) までお知らせください。

※学生会員の方へ

これまで学生会員の方で、卒業・修了された時は、事務局 (steering(a)ogeochem.jp) までお知らせください。本会の会計年度は1月より始まりますので、この3月末に卒業・修了される方は、学生会員の年会費で結構です。次年度より正会員の年会費の納入をお願いします。なお、卒業・修了後の連絡先を事務局 (steering(a)ogeochem.jp) まで忘れずに届けてください。

※異動・転居された方へ

職場や自宅が変わられた方は、会員管理と会誌郵送のために、新しい住所、電話番号、E-mail アドレス等を事務局 (steering(a)ogeochem.jp) までご連絡下さい。

※メールアドレスの(a)をアットマーク@に変えて下さい。

Announcement

2017 年度有機地球化学賞（学術賞）選考候補者推薦の募集

有機地球化学賞（学術賞）2017 年度受賞候補者選考委員会
委員長 坂田 将

有機地球化学賞（学術賞）受賞者選考規則により、2017 年度同賞選考候補者の推薦を募集いたします。つきましては、下記をご参照のうえご推薦ください。

記

候補者の資格：有機地球化学の分野で顕著な学術業績をあげた本会会員。

募集の方法：本会会員の推薦による（自薦他薦を問いません）。

推薦の方法：下記の事項を A4 サイズの用紙に任意の様式で記入し、書留で郵送すること。
（同内容のものを電子メールでも提出してください）

- 1) 候補者の履歴（大学卒業以降の学歴、職歴、その他）
- 2) 推薦の対象となる研究題目および推薦理由
- 3) 研究業績目録（推薦の対象となる主要な論文 10 編）
- 4) 推薦者の氏名と連絡先

締め切り日：2017 年 5 月 31 日（水）（当日消印有効）

提出および問い合わせ先：〒305-8567 つくば市東 1-1-1 中央第 7
産業技術総合研究所 地圏資源環境研究部門
地圏微生物研究グループ 坂田 将
電話 029-861-3898：ファックス 029-861-3666
E-mail：su-sakata@aist.go.jp

これまでの受賞者と研究題目については <http://www.ogeochem.jp/archives.html>
（日本有機地球化学会HP「学会アーカイブス」）をご覧ください。

研究奨励賞（田口賞）2017 年度受賞候補者の募集

研究奨励賞（田口賞）2017 年度受賞候補者選考委員会

委員長 山内敬明

研究奨励賞（田口賞）受賞候補者選考規則により、同賞受賞候補者推薦を募集いたします。つきましては下記をご参照のうえ、受賞候補者をご推薦下さい。

記

候補者の資格：生年月日が 1983 年 4 月 2 日以降であり、有機地球化学、石油地質学、堆積学の 3 分野のいずれかで優れた研究を行い、将来にも研究の発展を期待できる方。本会会員に限りません。

募集の方法：本会会員の推薦による（自薦他薦を問いません）。推薦の方法：A4 サイズの用紙に下記事項を任意の形式で記述し、郵送するか、PDF ファイルとして E-mail に添付してお送り

下さい。

- 1) 推薦理由及び研究題目
- 2) 研究業績目録
- 3) 研究論文の別刷りまたはコピー
- 4) 履歴書
- 5) 推薦者の氏名と連絡先

* ご存知の通り、昨年度は受賞者なしとなってしまいました。会員の皆様におかれましては、是非とも候補者ご推薦のほどお願い致します。

締め切り日：2017年5月31日（水）（当日消印有効）

提出及び問い合わせ先：〒819-0395 福岡市西区元岡 744

九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門 山内敬明

電話：092-802-4217 ファックス（電話に同じ）：092-802-4217 E-mail：

yamauchi.noriaki.439@m.kyushu-u.ac.jp

これまでの受賞者と研究題目については <http://www.ogeochem.jp/archives.html>（日本有機地球化学会 HP「学会アーカイブス」）をご覧ください。

ROG 32 巻 1 号が WEB 公開中 ROG 33 巻へ論文を投稿しましょう！

Researches in Organic Geochemistry

編集委員長 沢田 健

ROG (Researches in Organic Geochemistry)は本学会の学会誌であり、有機地球化学およびそれに関連する分野の研究論文を掲載し、冊子を発行しております。ROG 31 巻(Vol. 31)から年間複数号が発刊されています。今年 12 月に ROG Vol.32, No.1 が発行され、技術論文 1 編が WEB 公開されています。ROG Vol.32, No.2 は、2016 年 12 月 30 日発行で、2017 年 1 月に WEB 公開される予定です。また、ROG Vol.32, Nos.1-2 の冊子を 2017 年 2 月初め頃に本学会会員の皆様の下に郵送にてお届けできると思います。また、表紙デザインは、この数年と同様に、掲載される論文のうちから象徴的な図を ROG 編集委員会で選択して印刷します。楽しみにお待ちください。ROG Vol. 33 への論文投稿もすでに受け付け体制にあります。ご遠慮せずに積極的に論文原稿の投稿をお願いします。ROG Vol.33, No. 1 は 2017 年 6 月頃、No. 2 以降は 2017 年 10 月以降に WEB 公開する予定で進めております。冊子体はこれまでと同様に 12 月頃の発行を予定しております。皆様からの積極的な論文投稿をお待ちしています。

ROG の論文のカテゴリーはこれまで通り、1) 論文(article)、2) 短報(short article)、3) 技術論文(technical paper)、4) 総説(review)です。有機地球化学会シンポジウムで発表された内容や、博士論文・修士論文成果の発表なども歓迎いたします。詳細は、ROG Vol.31 の巻末の投稿規定をご参照ください。また、上記の枠に入らない論文や企画でも、有機地球化学の発展に貢献し、学会員にとって有意義な論文・企画であれば、随時、編集委員会で検討を進めます。積極的に編集委員会にお問い合わせ下さい。その他、いろいろなご意見、ご要望、ご感想をお寄せください。

ご投稿・ご連絡は下記までお願いいたします。

PDF 添付ファイルによる電子投稿：
sawadak@mail.sci.hokudai.ac.jp

郵送：〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 8 丁目
北海道大学 大学院理学研究院 地球惑星科学部門

沢田 健 編集委員長宛

(TEL: 011-706-2733, FAX: 011-746-0394)

編集後記：

新年あけましておめでとうございます。本年も会員の皆様からの記事のご寄稿をお待ちしております。

(大)

今回は寄稿依頼を担当させて頂きました。執筆頂いた皆様、ありがとうございました。(高)

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく願いいたします。今回は編集作業を担当させて頂きました。(金)

発行責任者 日本有機地球化学会会長 鈴木 德行
〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
北海道大学大学院 理学院 自然史科学専攻 地球惑星システム科学講座
Phone&Fax: 011-706-2730

日本有機地球化学会事務局

〒107-6332 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー
国際石油開発帝石株式会社 技術本部 評価技術ユニット内
事務局長 稲場 土誌典
Phone: 03-5572-0263, Fax: 03-5572-0269
e-mail: office@ogeochem.jp
ゆうちょ銀行口座 00110-7-76406 (名義人 日本有機地球化学会)

編集者 大場 康弘 (北海道大学低温科学研究所) 金子雅紀 (産業技術総合研究所) 高橋 聡 (東京大学大学院理学研究科)
e-mail: news@ogeochem.jp

有機地球化学会ニュースレターはホームページでもご覧になれます。

アドレス：<http://www.ogeochem.jp/>